

Company Outline

カンパニーアウトライン

Vol.7

「お客様に安心を提供する
会社でなければならない」

多品種、少量生産、短納期体制を守る
製造部門の中樞神経的役割を担っています。

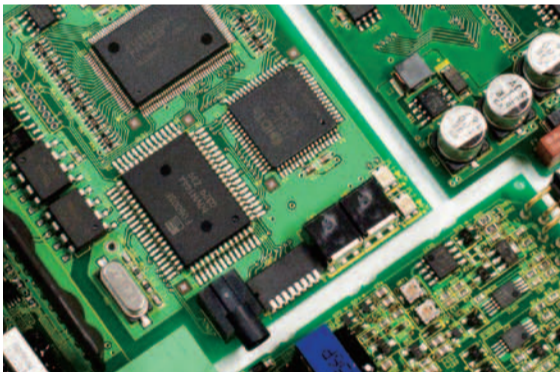
生産管理部

エム・システム技研は常時 3,000 機種を越す製品の製造・出荷を行い、お約束納期達成率は 99.99%を実現しています。短納期対応や大量発注、そして古い製品のリピートオーダーなど、お客様から様々なご要望をいただく中で、工業計器メーカーとしてベストな対応をさせていただくべく、日々様々な管理・調整を行っている部署が「生産管理部」です。今回は製造部門の中樞神経ともいえる「生産管理部」についてご紹介します。



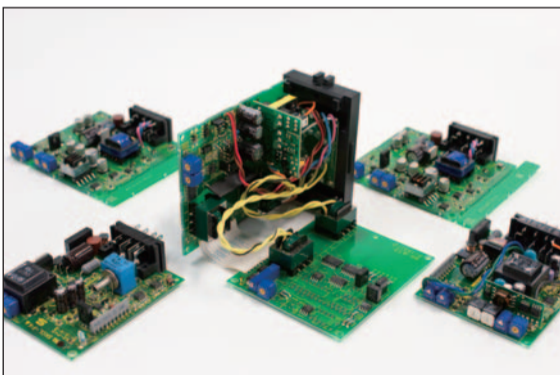
資材倉庫

生産計画を踏まえて最適な在庫量を確保し、求められる製造ラインに、必要な時、必要な数量を届けるのも、資材課の重要な役割です。



電子パーツの確保は製造部門の基本です。

いかなるときも、在庫を積みすぎないよう、不足しないよう、部品を管理するのが資材課の腕の見せ所です。生産中止品対応や RoHS 対応品への切換えなども、資材課の大切な仕事です。



短納期体制のカギを握る半製品

どの半製品をどれだけ作っておくかで、短納期への対応も随分変わってきます。「生産管理課」では受注予測をもとに、必要と思われる半製品の製造と管理を行っています。

*1. ただし、代替の電子パーツを手入れできない、あるいはリピートオーダーが見込めない場合などは廃形にすることがあります。

なぜ突然の短納期受注にも対応できるのか？

「生産管理部」が活躍するのは本納期より短いご注文のお問合せをいただいた場合や大量のご発注をいただいた場合です。部品や半製品の在庫を確認し、製造および検査の設備・人員の確保を確認した上で「納期回答」を行います。回



DAST-A1

答した納期でご発注をいただければ直ちに生産工程の設定変更などを行います。また「生産管理部」は製造納期を短縮するだけでなく、「納期回答時間」の短縮にも努めています。お客様からお問合せをいただいている間に回答するまでにかかった時間を毎回計測し、その平均時間を「納期回答速度」として社内公表しています。現在では約40分でお答えできるようにりましたが、さらに時間を短縮し30分を目標に「納期回答速度」アップに努めています。

なぜ「DAST-A1」を今でも出荷できるのか？

「DAST-A1」といえば今から29年前の1982年（昭和57年）に発売されたテレメータ回線用多重伝送装置です。今でもよくリピートオーダーをいただきます。この「DAST-A1」に限らずエム・システム技研は商品を廃形^{*}しませんでした。このため何年も受注が無かった商品が突然入

ることもよくあります。このため電子パーツの在庫量や代替電子パーツの管理はとても重要になります。さらに電子パーツが替われば、それに合わせて製作図面もメンテナンスしなければなりません。「生産管理部」は「設計部」とも連携し古い製品の図面(部品表、検査表など)も常にメンテナンスを行い、いつでも生産できる体制を整えています。「生産管理部」は部品、半製品の在庫量や設備・人員の確保においても、お客様からのごようなご要求が入っても柔軟に対応できる体制を整えています。

お客様に最短時間で納期いただける納期を回答します。

「生産管理部」は部品管理を行う「資材課」、半製品管理などを行う「生産管理課」、協力工場の管理を行う「生産委託購買課」、そして納期回答などを行う「生産業務課」からなります。エム・システム技研では、営業部がパソコンから直接受注入力できる「自動納期回答システム」を用いています。基本納期など一定の条件を満たしたオーダーはコンピュータの判断で生産計画に組み込まれ、自動的に納期が確定する仕組みになっています。「生産管理部」はこの生産計画が滞りなく進むよう部品の供給や調整に努めています。

「DAST-A1」にも当然多くの電子パーツが使用されていますが、電子パーツはパーツメーカーの事情で仕様変更や生産中止になることがよくあります。このため電子パーツの在庫量や代替電子パーツの管理はとても重要になります。さらに電子パーツが替われば、それに合わせて製作図面もメンテナンスしなければなりません。「生産管理部」は「設計部」とも連携し古い製品の図面(部品表、検査表など)も常にメンテナンスを行い、いつでも生産できる体制を整えています。「生産管理部」は部品、半製品の在庫量や設備・人員の確保においても、お客様からのごようなご要求が入っても柔軟に対応できる体制を整えています。




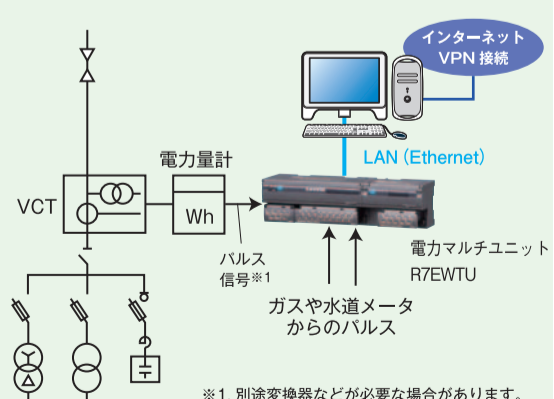
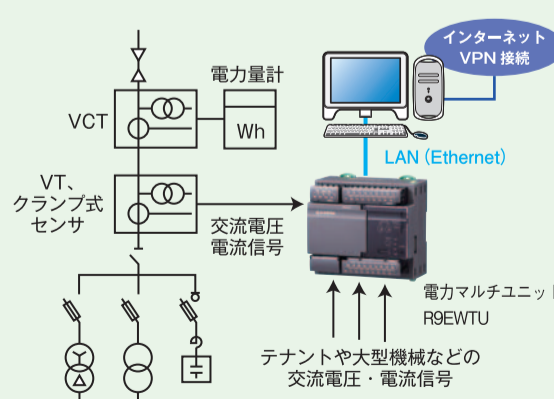
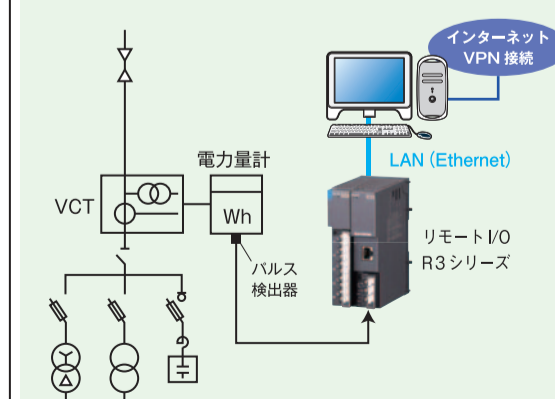


これならできる電力監視！

どんな施設でもデマンド監視が可能になります。

- ビル1棟ずつのデマンド監視が簡単に行えます。
- 超過電力を予測して4段階で警報を表示します。
- 集中監視も可能です。

いままで費用対効果を考えると難しかった電力監視もこの価格ならこの簡単さならきっと実現できます。

2回路対応 電力測定Aセット	8回路対応 電力測定Bセット	パルス検出用 電力測定Cセット
 <p>少チャネルコンパクト 一体形 リモートI/O R7シリーズ 新製品</p> <p>基本構成価格：186,000円</p> <p>1回路入力と2回路入力があります。1回路入力には積算パルス入力4点がついており、電力量計のパルスのほか水道メータやガスメータのパルスも入力できます。</p>	 <p>多チャネル一体形 リモートI/O R9シリーズ 新製品</p> <p>基本構成価格：247,000円</p> <p>最大8回路まで入力できます。ビル・工場の電力監視の他、テナントや大型機械などの電力も個別に監視できます。</p>	 <p>多チャネル組合せ自由形 リモートI/O R3シリーズ</p> <p>基本構成価格：301,000円</p> <p>既設の電力量計やデマンドメータからパルス検出器により単位パルスを検出し、電力解析を行います。</p>
既設の電力量計が出力するパルス信号を入力するだけ！	幹線だけでなく主要な負荷の電力量もそれぞれ監視！	既設の電力量計からパルス検出器を使って信号を入力！
 <p>※1. 別途変換器などが必要な場合があります。</p>		
<p>監視画面はインターネットVPN接続でどこからでも閲覧できます。</p> <p>○PCはお客様にてご用意ください。○工事費・エンジニアリング費は含んでおりません。○交流電流を測定する場合は別途クランプ式交流電流センサ（CLSEシリーズ）が必要です。</p>		

NEWS & TOPICS

新製品情報

省スペース リモートI/O R8シリーズを新発売!

■ ベース要らずのリモートI/O R8シリーズ

- カード幅は、1枚=12mm (電源通信カードは50mm) です。
- DINレールを用意していただくだけで、専用のベースは不要です。
- ベース要らずなので、増設が自由自在です。
- コンパクトなボディにもかかわらず、入出力の確認ができる状態表示LEDが付いています。



リモートI/O R8シリーズ

(電源通信カード W50×H115×D55mm)
(入出力カード W12×H115×D59mm)

仕様	形式	基本価格
電源通信カード (Modbus用)	R8-NM1	40,000円
接点4点入力カード	R8-DA4	8,800円
トランジスタ4点出力カード (NPN対応、短絡保護機能付き)	R8-DC4A	8,800円

新製品情報

多チャンネル組合せ自由形リモートI/O R3シリーズ 温度調節計カード (形式: R3-TC2) を新発売!

- 1カードで2つのPID制御ループを構成できます。
- ユニバーサル入力を2点標準装備しており、熱電対、測温抵抗体入力の温度計としてだけでなく、電圧・電流信号、ポテンショメータ入力の調節計としてもお使いいただけます。
- オートチューニング機能を搭載しています。
- PIDパラメータ、設定値を各ループ毎に4組まで登録し、切り換えて使用できます (バンク切換え)。



温度調節計カード (形式: R3-TC2)

基本価格
35,000 円

(W27.5×H130×D109mm)

カタログ紹介

新しいカタログができました!

>>> カタログのご請求はホットラインまで ☎ 0120-18-6321

■ 温度調節計カード R3-TC2



1カードで2つのPID制御ループを構成できる温度調節計カードの特長とアプリケーション例をご紹介します。 A4サイズ 2ページ

■ リモートI/O R7F4DHシリーズ



HLS (Hi-speed Link System) 対応のリモートI/O R7F4DHシリーズの特長を3種類の接続方法別にご紹介しています。 A4サイズ 2ページ

新製品情報

超小形、高いコストパフォーマンスで好評のM5・UNITシリーズに、超高速応答 (30μs) のM5VF2が仲間入りしました!

- 入力仕様、出力仕様が豊富です。
- オプション仕様*1もお選びいただけます。
- 超高速応答 (30μs) でも、±0.1%の高精度です。
- 電源表示LEDを搭載しています。



アナログ形、超高速30μs応答 直流入力変換器 (形式: M5VF2)

基本価格
35,000 円

(W25×H97×D41mm)

*1 オプション仕様 (コーティング、トリマ) により加算価格があります。詳しくは仕様書をご覧ください。

セミナー・イベント

MKセミナーを10月 関東、11月 関西にて開催!

受講料無料

下記のコースの中から、ご希望のコースを1日単位でお選びいただけます。

関東会場	関西会場
(株)エム・システム技研 関東支店 東京都港区芝4丁目2番3号 NOF芝ビル1F	(株)エム・システム技研 関西支店 大阪市中央区伏見町4丁目4番9号 オーエックス淀屋橋ビル8F



コース名 (開催時間 9:30~17:00)	関東会場日程	関西会場日程
■ オームの法則 簡単な回路から電流・電圧・抵抗を測定してオームの法則を学習	2011年 10月18日 (火)	2011年 11月8日 (火)
■ 変換器のアプリケーション 代表的な計装用信号変換器の役割と特性をパソコンの画面を見ながら学習	2011年 10月19日 (水)	2011年 11月9日 (水)
■ PID制御の基礎 温度を制御対象にした実習教材とパソコンを接続し、画面に表示される測定値、出力値の変化を観察しながらP・I・D制御動作を学習	2011年 10月20日 (木)	2011年 11月10日 (木)
■ 省エネのための電力監視 リモートI/OとPCレコーダを用いて、省エネ・省コストのための電力監視を学習	2011年2011年 10月21日 (金)	2010年 11月11日 (金)

MKセミナーのお申込み および お問い合わせ先

(株)エム・システム技研 セミナー事務局 (担当: 井上)
TEL.06-6659-8200 / FAX.06-6659-8510

●ご参加の方には受講者登録票をお送りします。定員には限りがございますので、お早めにお申込みください。

セミナー・イベント

SCF システム コントロール フェア 2011 に出展します!

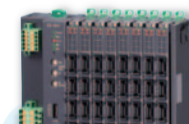
エム・システム技研は、オープンフィールドネットワークに対応したリモートI/Oの開発に注力しており、今回は制御用ネットワークICのメーカーである(株)ステップテクニカ社と共同出展し、超高速でノイズに強いHLS (Hi-speed Link System) 通信対応のリモートI/Oやゲートウェイなどを、アプリケーション交えて展示します。つきましてはご多忙中のことと存じますが、ご参観賜りたく、ご案内申し上げます。

会 期 : 2011年11月16日 (水) ~11月18日 (金) 3日間
会 場 : 東京ビッグサイト(有明: 東京国際展示場) 西1・2ホール
開場時間 : 10時~17時
エム・システム技研ブース番号 : No. 2-35 (西2ホール)

■ エム・システム技研の主な出展機器



少数一体形、HLS対応リモートI/O R7F4DHシリーズ



スライス構造 リモートI/O R8シリーズ



多チャンネル一体形リモートI/O R9シリーズ

「システム コントロール フェア 2011」についてのお問合せ先

(株)エム・システム技研 カスタマセンター
TEL.06-6659-8200 / FAX.06-6659-8510

●記載内容はお断りなしに変更することがありますのでご了承ください。●ご注文・ご使用に際しては、最新の「仕様書」および「ご注文に際して」(http://www.m-system.co.jp/info_order/index.html)を必ずご確認ください。

エム・システム技研製品のご注文や価格につきましては、下記までご連絡ください。

MSYSTEM
Automation Components Company

ホットライン
☎0120-18-6321
カスタマセンター
TEL.06-6659-8200 FAX.06-6659-8510

株式会社 エム・システム技研

●ホームページ: <http://www.m-system.co.jp/>
●Eメール: hotline@m-system.co.jp

本社・カスタマセンター 〒557-0063 大阪市西成区南津守5丁目2番55号 TEL (06) 6659-8200(代) FAX (06) 6659-8510
関東支店 〒108-0014 東京都港区芝4丁目2番3号 (NOF芝ビル1F) TEL (03) 3456-6400(代) FAX (03) 3456-6401
中部支店 〒460-0003 名古屋市中区錦1丁目7番34号 (ステージ錦ビル3F) TEL (052) 202-1650(代) FAX (052) 202-1651
関西支店 〒541-0044 大阪市中央区伏見町4丁目4番9号 (オーエックス淀屋橋ビル8F) TEL (06) 6223-0040(代) FAX (06) 6223-0041

MST MS TODAY 第20巻 第3号 通巻222号 2011年10月1日発行 (エムエスデーはWebサイトでもご覧いただけます。http://www.m-system.co.jp/mstoday/index.html)
発行所: (株)エム・システム技研 編集・発行: (株)エム・システム技研 広報室 〒557-0063 大阪市西成区南津守5丁目2番55号 TEL (06) 6659-8202 FAX (06) 6659-8512

本誌は環境にやさしい
植物油インキを使用しています。



代理店